

第78回 ISO/TMB (技術管理評議会) 結果報告

経済産業省 国際標準課

基準認証専門官

猿橋 淳子

令和2年7月21日

今回のTMBに関して

- 今回のTMBは、ISOの会長会議の指示に従い、全議論がWEBで開催されました。
- そのため、会議のサイドでの調整もできないため、決議の数も少なくなっております。
- 現時点では、対面会議開始の時期は決定されていないため、今後もISOからの連絡に注意いただければ幸いです。
- 3か月ほどの経験から、今後大量に期限延長を求めるプロジェクトも少ないであろうということで、対応終了を検討している決議もありますが、引き続き安心・安全な状態での規格開発にご対応いただけるようお願い申し上げます。
- なお、遠隔会議が推奨されておりますが、時差の問題に関してはなくなることがありません。もし、何か困難な事象等が発生しましたら、ご連絡いただければ幸いです。

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（1）

1. 任務

●ISO規格作成に関する管理事務的事項

- ✓TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、ISO/IEC専門業務指針の改訂等

●ISO規格作成に関する戦略的事項

- ✓規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの審議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（2）

2. メンバー（出席者）

- TMB議長: Ms. Sauw Kook Choy（シンガポール）
- TMBメンバー（14名）：Mr. Steven Cornish（米）, Ms. Amanda Richardson（英）, Ms. Petra Scharf（独）, Mr. Alain Costes（仏）, Ms. Atsuko Saruhashi（日）, Ms. Karin Lindmark（スウェーデン）, Mr. Anton Shalaev（露）, Mr. Jin Su Chun（韓）, Ms. Merete Holmen Murvold（ノルウェー）, Ms. Mojdeh Rowshan Tabari（イラン）, Dr. Mkabi Walcott（カナダ）, Mr Roy Chowdhury（印）, Ms Julia Bonner Douett（ジャマイカ）, Mr Chenguang Guo（中）：初日のみ

※ 欠席：代表不在（墨）

- ISO中央事務局：Mr. Antoine Morin TMB事務局長代理、ほか3名
- オブザーバー：Mr Ralph Sporer IEC/SMB議長、Mr Gilles Thonet SMB事務局長

【議題2.1.1】 ISOCSのCOVID-19対応措置の最新情報①

<背 景>

- COVID-19の影響でISO全会議がバーチャルで開催されることになって以降の、規格開発への影響をCSが調査した結果が示されている。
- 新規案件数が減少傾向にある。また、少なからず会議が「中止」されている。
- バーチャルで会議を開催することに抵抗が大きいわけではないが、複雑な議題をバーチャルで扱う事の難しさ、対面ならではのメリットが失われる事への懸念、非英語ネイティブとのコミュニケーションの難しさを指摘する声あり。

<審議内容>

- On hold statusのプロジェクトの取扱
 - このOn hold statusで登録されたプロジェクトが少ないことから、延長不要の議論。
- 対面会議禁止に関して
 - 対面会議はいつからやれるのかということも伝えるべきではないか（年内は不可など、1ヶ月更新はそろそろ非効率）。会議室やレストランなどサイドイベントの予約や準備も考慮すべき。
 - 全てが遠隔会議にせよ、次のステージのあり方、new normalの議論も必要。
 - 対面禁止は2020年末までにすべき。

【議題2.1.1】 ISOCSのCOVID-19対応措置の最新情報②

＜結 果＞ 決議番号：49/2020

COVID-19の世界的流行への対応で取られたTMBの例外的な措置の期限の延長

- TMB決議 28/2020: “休止ステータス”の要請の可能性は2020年8月31日まで。
- COVID-19の状況への対応のための以下の措置に関連する期限は：
 - TMB決議 29/2020: CD投票期間 – 2020年9月30日まで延長
 - TMB決議 32/2020: 会議通知（2020年9月30日まで、TMB決議 32/2020に含まれている最短通知期間で会議を招集することができる）
- ISO理事会による解除の助言まで対面会議通知を送ってはならない。
- 状況の変化に応じてこれらの期限を見直すことに同意し、新しい更新事項はISO事務総長が発表する。

【議題4.1】 TMBワークプログラム2021

<背 景>

例年の2021年のTMBの業務計画（Work Program）案の承認。

<審議内容>

- 記載内容の確認や、理事会やTMBとの責任の分担（例えば、Machine Readable Standardsなどは、コンテンツや手法はTMBがリードするものの、新しい規格の販売方法などは販売部門との調整が必要。）

<結 果> 決議番号：50/2020

- 下記に重点を置いた2021年TMB業務計画原案を承認し、理事会へ提出。
 - ISO 2030戦略への貢献
 - 専門業務の管理
 - 専門業務でのパートナーとの連携及び協働
 - ISO/IEC専門業務用指針
 - TMB固有のグループの管理及び監督

【議題5.1.1】 Machine Readable規格(MRS)に関する SAGからの報告に対するTMBからの推奨事項①

＜背 景＞

MRSに関する下記決議の承認が求められた。

＜結 果＞ 決議番号：51/2020（続く）

- Machine Readable規格(MRS)のSAGと、以下の理事会への資料のため、TMBワークショップを運営してくれたSAGコンビーナ及びISO/CSに更に感謝。
- ISO SMART(機械が適用することができ、読むことができ、転送することができる)規格に関する下記の推奨事項を理事会に提出することを承認。
 - ISO SMART規格の開発支援の戦略プロジェクトの設置を承認する
 - MRSに関するSAG作成ロードマップに基づいて、TMB、ITSAG、CPAGといった重要グループと協議の上、プロジェクト提案の作成に取り組むよう事務総長に求める。
 - 同プロジェクト提案の一部として下記の進行中のプロジェクト及びその評価をISO SMART規格プロジェクトにおいて考慮する。
 - 協働するためIECと連絡を取る。
 - 新しいISO戦略2030で“ISO SMART規格”という用語を使用を依頼。

【議題5.1.1】 Machine Readable規格(MRS)に関する SAGからの報告に対するTMBからの推奨事項②

＜結 果＞ 決議番号：51/2020（続き）

＜進行中のパイロット＞	
用語／地理情報の多言語用語集	ISO/TC 211/AG 7
スクリプト変換システム用コード	ISO/TC 46/WG 3 ISO 24229
カレンダーシステム用コード	ISO/TC 154/WG 5 ISO 34300
規格文書用メタデータ	ISO/TC 154/WG 4 ISO 36200
評価	
共通データ辞書	ISO/IEC オープンCDDをもとにISO/TC 184 SC4が提案
製品特性リポジトリ	ISO/IEC CDDを考慮して、ISO 13584 部品ライブラリ、eCl@ss、ECCMAオープンテクニカルディクショナリ／データ要求事項登録／規格項目マスター及びその他のこのようなツール

- 進行中のパイロット及び評価案に関する付加的な説明は[こちら](#)で入手可能

【議題5.1.1】 Machine Readable規格(MRS)に関する SAGからの報告に対するTMBからの推奨事項③

＜結 果＞ 決議番号：51/2020（続き）

- 事務総長が本推奨事項を2020年9月の会議で理事会に提出することに同意。
- ISO SMART 規格戦略プロジェクト提案に関する情報をTMBに提供し続けるようTMB事務局に求める。

【議題6.2.1】 TMB TF 14 ISO仮想規格開発プロセス (IVP) - アップデート ①

<背景>

2020年末までの TMB TF 14 (バーチャルによる規格開発) 継続に関して議論することが求められた。

<審議内容> (続く)

- 本件のリーダーであるANSIより
 - ・ プロセスの一部でしかないvirtual会議の会議形式だけに注力されている。
 - ・ 会議だけではなく、もっと広い概念でシステムとしてのvirtualを考える。
 - ・ そのため、IVPの名称は変えた方がわかりやすいと思っており、2020年末（もしくは今年夏に作業して9月）までに再提案する。
- 他メンバーより
 - ・ 現在、世界中が変化の最中であり、前向きに本件に関して検討する時期
 - ・ Virtualになることのメリットをプロジェクト案に記載することを希望

【議題6.2.1】 TMB TF 14 ISO仮想規格開発プロセス (IVP) - アップデート ②

<審議内容> (続き)

- IVPが技術に偏り過ぎているところがあり、もう少し大きな目で考えるべき。
- Virtualな環境で規格開発をすることを推奨するためのプロジェクト案が必要。同時に、現在TCがどのようなツール等が必要かを検討すべきでもあり、パイロットではなく実行させていくべき。
- 今後の会議の実施に係り、ハイブリッドな手法を考える必要があり、いろいろな調査や分析の結果を待つべきではないか。
- ハイブリッドでの実施が一番難しい。例えば、その際の投票の扱い方をどうするかが課題。

<結 果>

- TC 301のプロジェクトの完了が2021年2月であることから、そのレポートが到達するまでTF14を残すことで合意。

【議題6.5.1】 気候変動調整タスクフォース (Climate Change Coordinating Task Force)

<背 景>

TMB CCC-TFのこれまでの経緯から、TMBレポートの参考情報を考慮したうえで、規格策定プロセスに、ガイド82と併用できるようにガイド84の無料化もCPAGに依頼し、更に気候変動に関する調整委員会を設置する必要性に関して検討した。

<審議内容>

- 本来コーディネーションが主要業務であるが、気候変動枠組条約(UNFCCC)とのコンタクトが主になってしまっているのが問題。TC間の調整はTMBの役割であり、任せっぱなしではいけない。
- 一方、専門的な調整であるならば、専門家にコーディネーションは任せるべき。CSやTMBに専門性がないのであれば、専門家グループに任せるのは問題ない。
- TMBの役割や責任がないわけではなく、なんでもTMBがということはない。

<結 果>

- 1時間の議論にも関わらず、本会合にてコンセンサスが得られなかった。引き続き、議論することで合意。

【議題7.1.1】 MSS TFが行ったイノベーション管理に関するType A MSS(NWIP ISO 56001)のJSの評価に対するSCCからの異議申し立て

＜背 景＞

ISO 56001のJustification Studyが、MSSタスクフォース（MSSTF）において二度に亘り否決された。

提案国のカナダより、MSSTFは本来内容にコメントするのではなく、必要な情報が記載されているかの確認のみが業務。今回の2度のコメントは越権行為であり、本提案をTC279内のNP投票に進めたい旨、また必要性の評価は不要であることの確認を希望。

＜結 果＞ 決議番号：52/2020

- MSSTFは、新しいISO MSS提案の妥当性評価のための資料の完全性と質の精査及び評価は行うが、新規格提案そのものに必要性に関する評価またはコメントは行わないよう義務付けられていることに留意。
- SCCはISO/TC 279 イノベーション管理内でのNP投票のためにNWIP 56001の開発を進めてよいことに承認。

【議題7.2.1】大麻を扱う施設及び業務の安全、保安及び持続可能性に関するIWA

＜背 景＞

SISから、SCCからの本IWA提案を議論し、承認すべきか否かの議論が求められた。

＜審議内容＞

- 将来の市場の安全性確保のために実施するのであり、大麻そのものを扱うわけでもない。
- その製造装置の安全性などである。とはいえ、まだ難しい分野であることも認識しており、議論を求めたい。

＜結 果＞ 決議番号：53/2020

- 下記内容の決議案が承認された。
- 大麻を扱う施設及び業務の安全、保安及び持続可能性に関するIWAを承認し、幹事国をSCC (カナダ)に割り当てる。

【議題7.1.3】 中立性原則の例外の要請

ISO/TC 207/SC 3 – アップデート

＜背 景＞

ISO 14024（環境ラベル）とISO 14025（環境ラベル及び宣言－タイプIII環境宣言－原則及び手順）が、分離と中立の原則に関するISOの規則に違反。しかし、SC 3はこれを特殊なケースとして、原則の例外を認めるようISO/CSに要請した。

TMBはCASCOに対し、この要請に対して正式な見解を示すよう要請したところ、CASCOのレビューでは例外措置を執れるものではないと結論。

本件は、Directivesの範囲内で解決することが必要であるとし、TMB決議13/2020で、CASCOがTC 207/SC 3と連携して適切な解決策を見つけ、2020年6月のTMB会議に向けて報告するよう要請した。

CASCOとTC 207/SC 3の複数のリーダーで議論中のはずが、SC 3のWGコンビーナから、情報共有がされないケースが報告され、SISから確認の要望があったもの。

＜審議内容＞

- TMB決議だけでは、情報共有範囲が不明瞭なため、情報共有不足になった可能性がある。今後はTMB事務局から、関係者へ連絡することが望ましい。

＜結 果＞

- 関係者へActionを含めた情報共有をする。

【議題8.2.1】ウィーン協定実施時のHASプロセスに関する 懸念事項①

<背 景>

- 2019年2月のTMBにおいて、ウィーン協定（VA）の実施に関連する課題について協議。HASコンサルタントから、規格案に対して否定的な評価が非常に遅れて提出されることによる、多くの問題が報告されている。標準開発プロセスでは、FDIS投票の終了後1か月の提出も散見される。
- CEN-CENELEC管理センター（CCMC）が状況の詳細を文書で提供し、「ISO/CSとCCMCの間の日常管理」のレビューが行われた。この報告を2019年9月のTMB会議で行い、まずはISOの上層及びCEN/BT議長、更にECに対して、最新情報の提供し、プロセスの議論を要請するまで、このトピックに関する議論を延期した。
- しかしながら、更に医療分野でのECからの指令が市場に悪影響を及ぼしかねないとして、米国から更なる協議の依頼が今回到達。

【議題8.2.1】ウィーン協定実施時のHASプロセスに関する 懸念事項②

＜審議内容＞

- コンサルの遅さやECの欧州のみに焦点をおいた活動についてどう考えるかを米国が提起。以前、同様の案件があったときに欧州の仲間からは状況は理解するもECだからしょうがないという結論があったが、ANSIとしては9月に再度議論したい。
- 一方、欧州側もECのやり方（DIN曰く、behavior）には懸念を表明し、ANSIの懸念を共有する。欧州各国もCEN/CLC会長、CCMCのSGがECを交えて議論。
- COVID19により、ISO上層、CEN/BT、ECにおける会合は遅れているものの、懸念点は理解しており、引き続きECと議論する。

【議題9.1】 ITSAGへのインプット

<背 景>

規格開発プロセス改善のITプロジェクトに関しての議論が求められた。

<審議内容>

- ANSIより、本件に対してTMBをもっと巻き込んでいくべきとの提案。またTMB自体もITSAGからの情報共有から、ITプロジェクトに関して対応すべき。
- 検討点として
 - ISO/IECのJWGに参加すると、GDとEMSに登録が必要となり不便。改善すべきか。
 - ITSAGの6つのプロジェクトにVirtual standard development processのツールであるvirtual meetingのhost、project managementも入れるべき。
- 今回の文書は、high level documentなので、詳細は記載しない。検討点は内容としてはカバーされている。本件に関してCSとして確実に記録する。
- ITSAGは規格開発だけを担当しているわけではないため（営業、特許、販売など）、ガバナンスレベルを巻き込むために引き続き検討予定。

【議題10.1】 TMBダッシュボード

<背 景>

2月に実施されたTMB会合にて検討されたTMBダッシュボード（DB）について。

DBの構造は、大枠としてバリューチェーンとインフルエンサーから構築されていることを踏まえ議論。

<審議内容>

- 指標を設定する際は、定量的、定性的（品質的）の両方の側面を検討する必要がある。
- TF 11（プロジェクトマネジメント）の議論をきちんと踏まえるべき。TRACKは1度しか変更できないが、変更した後の活動をモニターし、見直すべき。
- SMBでは品質に関する議論があり、ターゲットをセットする際には基になる証拠も必要。
- DBの趣旨を考慮して、項目を盛り込みすぎるのはよくない。段々DBの内容が多くなりすぎているため、是非WSで調整しながら作成していきたい。

<結 果>

- WSを開催し、DBをまとめることで同意。

直近の新規専門委員会・新規プロジェクト委員会設立動向

- TMB決議43/2020（提案者：COPOLCO 幹事国：JISC（日本））

消費者事故調査ガイドライン(ISO/PC329)の設置

- TMB決議45/2020（提案国：フランス（AFNOR））

殺菌及び抗菌特性を持つ表面に関する専門委員会(ISO/TC 330)の設置

- TMB決議47/2020（提案国：フランス（AFNOR））

生物多様性に関する専門委員会(ISO/TC 331)の設置

- TMB決議54/2020（提案国：インド（BIS））

金融機関及び営利団体のための保安機器に関する専門委員会(ISO/TC 332)の設置

- TMB決議55/2020（提案国：中国（SAC））

リチウムに関する専門委員会(ISO/TC 333)の設置

ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun/kijyun/index.html>

日本産業標準調査会ホームページ

<http://www.jisc.go.jp/>